

重点施策7 市民総参加のスポーツと健康教育の推進

【施策方針】

生涯にわたって、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができるよう、スポーツ・レクリエーション活動の充実を図り、市民が健康で明るく生活できるよう努める。

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

- ① 生涯スポーツの振興
- ② スポーツ活動体制の充実・強化、学校体育との連携
- ③ スポーツ・レクリエーション施設の整備、野外活動の推進

(2) 施策・事業の実施状況

① 生涯スポーツの振興

スポーツに親しむ市民の拡大と継続したスポーツの推進を図り、社会体育を通じて、すべての市民が健康で明るく生活できるよう努めた。

- ・ 市スポーツ協会への助成を通じて、優秀な成績を収めた方の顕彰や、スポーツ大会の開催、全国大会などへの出場者に助成を行うなど、スポーツ活動の振興を図った。
- ・ スポーツ少年団への助成を通じて、体験発表会、ソフトボール及びサッカー大会を開催した。また、大会の参加や開催を促進し、競技力の向上に努めた。
- ・ 生涯にわたってスポーツに親しみ、健康で活力ある地域社会を実現するため、「山本隆弘氏とパナソニックパンサーズによるバレーボール教室」を開催した。
- ・ スポーツ推進委員による小学生対象のドッジボール大会を開催するなど、生涯スポーツの普及に努めた。
- ・ 公認スポーツ指導員等の資格取得に対して助成を行うなど、指導者の育成及び確保に努めた。
- ・ 社会体育施設の保守点検を適宜行い、不良箇所の修理を行うことにより、安全で快適なスポーツ、レクリエーション活動の環境整備に努めた。
- ・ 市民スポーツフェスタ 2019（17 地区公民館、1,059 名参加）、第 40 回八幡浜市クロッケー大会（13 チーム、48 名参加）、市民健康マラソン（707 名参加）、八幡浜駅伝カーニバル（107 チーム、535 名参加）の開催など、市民が気軽に参加できるスポーツ大会を開催し、市民へのスポーツ、レクリエーションの機会を提供した。

② スポーツ活動体制の充実・強化、学校体育との連携

市民のスポーツ活動の場として、学校体育施設を開放し、広くスポーツの健全な普及促進と健康増進を図るとともに、学校体育との協力体制の推進に努めた。

- ・ 学校施設の体育館及びグラウンドの開放を行い、市民へのスポーツ、レクリエーション活動の場を提供した。

③ スポーツ・レクリエーション施設の整備、野外活動の促進

児童生徒の自然とのふれあいの中での豊かな人間性を養う野外活動の展開を図った。

- ・ 第51回八幡浜市歩け歩け大会(171名参加)、やわたはま国際MTBレース2019(3,000名参加)、やわたはま秋のMTBカーニバル(92名参加)などのアウトドアスポーツイベントを開催し、スポーツ交流人口の増加と地域振興を図った。
- ・ マウンテンバイクの貸出し事業を実施するとともに、定期的にマウンテンバイク教室を実施し、競技の普及促進に努めた。
- ・ スポーツセンタープール屋根及び床の改修を行った。

【事務事業点検評価委員意見】

- 東京オリンピック、パラリンピックを控え、また、スポーツマスターズ等への関心も高まる中、市民誰もが生涯スポーツに親しむことができるよう、更に振興、支援をお願いしたい。
また、競技スポーツにおける全国的にも優秀な競技(水泳・駅伝・ソフトテニス・レスリング・ソフトボール等)の指導者及び選手への応援や支援も引き続きお願いしたい。更に、スポーツ活動の小・中・高・一般の連携、協力も重要である。
- 少子化の影響を受け、スポーツ少年団活動は、小学校区単位で維持することが難しくなっているが、団員が競技等で校区を越えた活動を行い、様々な工夫が見られることは喜ばしいことである。
- 「やわたはま国際MTB」を八幡浜市が開催することは、大変意義深いことである。国及び世界のトップクラスの競技を、地元で観戦できることは、スポーツマン、そして青少年にとって、大変貴重な体験である。
- 最近、都会からの旅行者で野外活動(テント等持参)を楽しむグループを見かけるようになり、本市でも増えてきている。利用しやすい受け入れ態勢、整備をお願いしたい。

【自己評価】

- 新型コロナウイルスの影響により、東京オリンピック・パラリンピックが延期となったが、そのような中でも、年齢を問わず関心が高まる大規模なスポーツイベントをきっかけとして、スポーツに親しむ市民の拡大と継続したスポーツの推進を図りたい。また、オリンピック聖火リレーが当市では愛媛県最終走行区間として実施予定であり、成功させることで機運

醸成を図っていききたい。

引き続き、優秀な成績を収めた方の顕彰や、スポーツ大会の開催、全国大会などへの出場者に助成を行うなど、スポーツ活動の振興を図りたい。

- スポーツ少年団活動においては、少子化の影響を受け、単位団及び団員数が減少傾向にあるが、それぞれのスポーツにおいて学校の垣根を越えた交流を行い、スポーツ少年団活動でしか味わえない活動を維持し、引き続き中学校の部活動においても、その経験を生かしてもらえるよう、下支えするための活動助成を行っていく。
- 毎年国内最高峰のマウンテンバイククロスカンントリー競技大会を開催し、来年は東京オリンピックを控え、次回開催の「やわとはま国際 MTB レース 2021」も多くの外国人選手や有力選手の参加が見込まれ、トップレベルの競技を地元で観戦することができる。それに伴い、観戦エリアやコース改修を行う。また、地域の小・中学生を対象にマウンテンバイクスポーツクラブを設立し、マウンテンバイクの普及活動を行っている。
- 現在、生涯学習課所管施設には、いわゆるキャンプのような屋外活動ができる施設がないため、必要に応じて、所管課と協議したい。